

伊予三島ロータリークラブ



2016-2017
WEEKLY



具定展望台より四国中央市を望む

人間に奉仕するロータリー

Rotary Serving Humanity

2016-17年度国際ロータリー会長

No. 18

平成 28.10.28

第3010回

事務局 四国中央市金生町下分865 四国中央商工会議所内
http://www.iyomishima-rc.jp TEL (0896) 58-3530
E-mail: iyomis@iyomishima-rc.jp FAX (0896) 58-6294
例会 金曜日 12:10~13:10
■会長/井原 伸 ■幹事/今村定生 ■広報委員長/石川 勉

卓 話 (外部)

「元迷デカの眠気覚まし」



四国中央自動車学校 管理者 近 藤 慈 孝

近年の本県の犯罪情勢は、刑法犯の認知件数が減少の一途をたどっているものの、その犯行形態は広域化、スピード化のほか組織化、巧妙化、凶悪化がますます激しくなっております。このような情勢の中、刑事警察の使命は、なんといっても犯人の検挙です。そのためあらゆる手法を駆使して犯罪捜査を展開するのですが、捜査は人がするものであり捜査員に実力がなければ、挙がる事件もお宮入りとなってしまいます。

刑事警察では、捜査手法の研鑽や捜査支援システムの活用等が叫ばれていますが、捜査は、現場観察、聞き込み、内偵、取調べ等人がするものという原点に立ち返り、気力、体力、忍耐力等を持ち合わせた実行力、対話力の優れた刑事の育成が喫緊の課題となっています。「県警を背負って立つ刑事」に、多くの者が挑戦してくれることを期待しています。

ここで、近年問題となっている犯罪事例を2つ紹介します。冒頭でも触れましたが、

犯行は、広域・巧妙化等しており、裏の社会と警察の知恵比べになっています。

1つ目は広域犯関係です。以前の盗み、強盗等といえば単独犯が主でしたが、平成7年頃から不法入国の中国人らによる爆窃団が横行し、それに合わせて広域組織犯罪が急増しました。爆窃団は、日本人を運転手として雇い、全国を股にかけ、破壊を伴う盗みや強盗を繰り返したのです。私が当直の時、管内の大手電気店付近の住民から、物が壊される音がするとの通報を受け臨場しますと、店内は足の踏み場もなく荒され、商品はほとんど消えていました。愛媛で初の爆窃団の現場でした。

広域犯は、ヒット&アウェイ方式で犯行を繰り返します。県外から高速で入って事件を打ち、そのまま県外へ逃走する手口です。警察が事件を認知した時には、既に県外へ逃走しており難しい事件対応となります。北陸、近畿を中心に西日本で暗躍した自販機荒しのグループを検挙しましたが、県外者は、警察の動きを少しでも察知すれば、捜査網からのがれ県外へ逃走します。

このグループも張り（警戒活動）がきつく、盗んだ車を足に使い、車両放置時には消火剤を噴射して証拠隠滅を図るといった徹底振りでした。本部主導で、一線署の捜査員も投入し、深夜から未明にわたって事件を重ねたところを押さえました。

2つ目は特殊詐欺関係です。平成16年頃からは記憶しておりますが、当初は、子供や孫に成りすました者が電話口で金を要求し、振り込みがないと外国の漁船に乗せられるとか、タコ部屋に入れられる等と言うような騙しで「振り込め詐欺」と呼んでいました。

今は、還付金や架空請求、オレオレ詐欺等手口も多様化し、特殊詐欺として目や耳にしない日はありません。この種の事件を防ぐ方法は、人に相談することです。顔を見せない話は、まず詐欺ですが「違法だ」等と告げられると、冷静でいられなくなりそこに付け込んできます。最近では、メールで「有料動画閲覧履歴があり未納料金が発生しております。本日までご連絡なき場合法的手続きに移行します。〇〇相談窓口 電話番号等」と、あからさまに脅してくるものも横行しており、こんな乱暴な法的手続きはありませんので、放っておいてください。電話を掛けさすのが目的ですから。

つぎにマスコミについて少し触れておきます。グリコ・森永事件を引用して話します。戦後事件史上、マスコミをもっとも騒がせたのは、昭和59年頃のグリコ・森永事件とされています。劇場型犯罪とも呼ばれました。当時の担当記者の回顧記事に「なぜ騒いだのか。簡単だ。おもしろかったからである。」とあり、驚きでした。この事件は、未検挙のまま、当時、犯人を取り逃がしたと言われたノンキャリアの滋賀県警本部長は、退任が決まった翌年、焼身自殺しています。悲しい結末です。大阪府警が捜査を指揮しましたが、現場設定になり現金輸送車が名神高速から滋賀県内に入っても滋賀県警に事件の概要を入れなかったようです。実は、この現場設定当夜、滋賀県内で不審者に対する職質事案がありました。時間は、午後9時過ぎ。一般警ら中の滋賀県警パトが高速道の下で、40歳位の男が乗ったライトを消したライトバンを見つけました。男は、急発進させ逃走。パトは追跡するも100キロ近いスピードで曲がった狭い道を逃げ、結局、逃げられます。これが、グリコ・森永事件の犯人を、逮捕できるかどうかの決定的瞬間だったといわれます。しかし、情報のないパトにとっては、一般的な不審事案です。1ヵ月後報道協定が解除され、一斉にこのときの対応について「滋賀県警大失態」という見出しが躍りました。大失態だろうか？マスコミの対応を一步間違えると、こんな濡れ衣をかけられてしまいます。事件報道では、被害者が小さな子どもや女性の場合等も敏感に反応しているように思います。

最後に、課題となっている司法制度改革の一つである、取調べの全過程の可視化について話します。可視化の流れは、鹿児島県志布志の選挙取締りでの強引な取調べが一つの引き金となり、さらに厚生労働省の村木厚子前事務次官が局長時代の文書偽造事件の無罪等も追い討ちをかけ「供述に頼った捜査のあり方」への批判であると思います。

全面可視化の動きは、司法制度改革の津波のように感じています。力の無い者の無理な調べが、こういった流れを呼び込んだと思います。取調べは、被疑者に信頼され「なるほど」と思わせなければ落ちません。例えば、組を抜けようか迷っている者を調べる場合「この刑事さんなら自分の組を潰してくれるかも知れない。」そこまでの信頼を得なければ、自供はないし、突き上げ捜査も難しいと思います。全面可視化に進むと、表面的な調べに終始し、真相究明につながるか危惧しています。人間の心理としてカメラの前では「心を通じた本音の話」を交わすことは大変です。ただ公判

で争われる取調べ時の任意性の証明については、取調官の負担は軽減されると思っています。

(任意性を担保する理由～取調べは、逮捕被疑者といえども任意が原則、強制は違法です。皆さんも仕事で人といろんな交渉事をされるとおもいます。交渉は、お互い意見を持った者同士が、どこかで合意点を見出して前に進めて行くものでしょう。しかし、取調べは、真相究明のため相手から供述を引き出すことを主眼としており、その過程で無理がなかったか任意性が問題となるのです。)

ボランティアの森植樹活動に参加

去る10月30日にボランティアの森委員会の呼びかけにより、恒例となりつつある植樹活動に伊予三島ロータリークラブより篠永靖司、藤田誠一、外山英敏、今村純一、石川 勉会員の5名が参加しました。

今回は川之江ロータリークラブの活動の一環として、国際ロータリークラブの助成事業を受け実施されました。内容としては、桜3本・ヤマモミジ5本・ヤマツツジ160本を富郷ダム周辺へ植樹し、森の造成の大切さを学んだ。

帰りには石川 勉会員の山小屋へお邪魔しアメゴを食して帰路へ着きました。



第3010回 例会 記録 平成28年10月28日

開会 井原 伸 会長

来賓紹介

四国中央自動車学校 管理者 近藤慈孝氏

出席報告

出席会員 (34名中) 25名
出席率 78.13%
第3008回修正出席率 93.75%

会長の時間

○定例理事会報告

・11月12日・13日上期親睦家族会の
例会変更について 承認

①11月11日(金)→12日(土)

②11月18日(金)→13日(日)に変更

・11月度プログラムについて 承認

11/4 ロータリー財団委員会

11/11→12日(土)に変更

11/18→13日(日)に変更

11/25 ロータリー情報委員会

定例理事会

幹事報告

例会行事

卓話 (外部:クラブ奉仕委員会担当)

桂 高司 委員長

『元迷デカの眠気覚まし』近藤慈孝氏

ニコニコ紹介

桂 高司 クラブ奉仕委員長～
クラブ奉仕委員会の卓話
本日は当委員会の担当で、当校の
管理者に卓話をして頂きます。
宜しくお願いします。

竹本哲也 職業奉仕委員長～
10月14日の職業奉仕委員会の職場
訪問に際し、多くの方に出席して
頂き有難うございました。当委員
会の西岡副委員長には、大変お世
話になりました。

西岡 孟 職業奉仕副委員長～
10月14日の移動例会に土居町長津
の物流センターにお越し頂きまし
て、誠に有難うございました。

11月11日→12(土)プログラム予定

11月18日→13(日)プログラム予定

親睦委員会『上期親睦家族会』